

2 - 3 . 日本弁理士会の役割

(報告者 : 西森 浩司)

(1) 講演日時 : 2004 年 2 月 18 日 16:45 - 17:15

(2) 講師 : 西森 浩司

(3) 講演内容 :

- ・ パワーポイント原稿を用いて「日本弁理士会の役割」について説明した。
- ・ 弁理士会の一般的な説明の後、現在、日本弁理士会は、会として、支援活動、研修活動、そして、仲裁センターの活動に力点を置いて運営していることを説明した。
- ・ 弁理士制度だけでなく、それを会として運営してきたことが、日本の特許制度が旨く機能した原因であり、日本の特許制度が旨く機能したから、日本がこれだけ工業的に発展してきたが、かかる工業的な発展を支えているのが発明である。机の上にあったペットボトルを例に、どのような発明が具現化されており、それがどのような利便性を利用者にと与えているかを説明した。
- ・ トヨタ、ホンダ、ソニー、松下など、日本の多くの大企業は、町の一発明から始った会社であり、その売上の合計は 20 兆円を超える。しかし、忘れてはならないことは、その始まりは、それぞれたった一人の発明家からスタートしている点である。
- ・ 弁理士は、このような発明を行った発明家が最初にコンタクトする人物であり、発明者の味方は極論を言えば弁理士だけである。従って、弁理士の能力、人物は優れたものでなければならない。日本弁理士会は、種々の研修を通じてその資質の維持をすべくフォローしていることを説明した。
- ・ 最後に、タイにおいても代理人制度だけでなく、さらに、これを統合する日本弁理士会のような組織が作られることを祈っている旨を伝えてスピーチを終えた。